

たしざんやひきざんのおはなしをつくろう

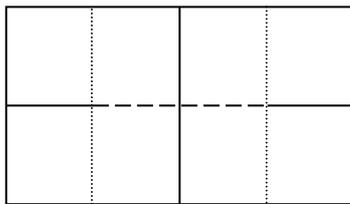
単 元	たしざん・ひきざん（1）おはなしづくり	対象学年	1 年
ね ら い	たし算やひき算の式を具体的な場面に表すことで、たし算やひき算の式について理解を深めることができる。		

1 準備するもの

教師：A 3 画用紙

2 学習のしかた

- (1) お話を作る式を設定する。（※設定した式が未習の計算にならないようにする）
- (2) A 3 の画用紙を切って折り，絵本の形を作る。
- (3) 教科書の絵を参考にしたり，自分自身で考えたりすることで，式や場面を想起する。



----- 切り取り

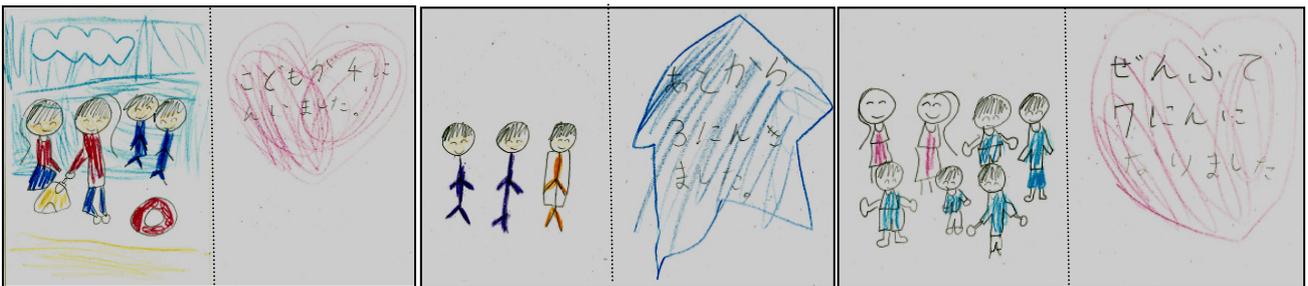
————— 山折り

..... 谷折り

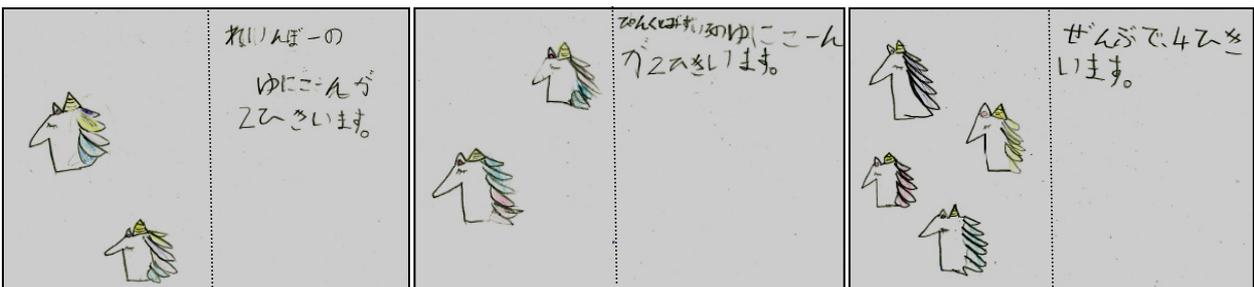
A 6 サイズ
6 ページの冊子ができる。

- (4) 1 ページずつ絵とことばをかいていく。
(※左ページに絵，右に問題をかくように指示する。)

・増加 $4 + 3 = 7$



・合併 $2 + 2 = 4$



・ 求残 $7 - 3 = 4$



・ 求部分 $7 - 3 = 4$



(5) 完成した絵本を友達と読み聞かせ合い、交流する。



3 学習上の留意点

- ・ 児童が学習意欲を高めるために、自由な発想を大切にする。
- ・ 未習の計算が出ないように、予め設定された式の中から選ぶようにする。
- ・ お話を作った後に必ず、それが式として適切かどうかを確かめるようにする。
- ・ 言葉のページと絵のページを左右に分ける。絵を描くことに力が入りすぎないように声掛けし、言葉を先に記入するようにする。
- ・ 全体発表の際には、たし算（合併・増加）、ひき算（求算・求差）のいろいろな場面が出るように児童の作品を把握しておく。

4 学習の効果

- ・ 式から具体的な場面を考える活動であり、要素を絵で表すことで、図による問題解決の素地を養うことができる。
- ・ 児童にとって親しみやすく楽しい活動なので、大変興味深いものになり、式と場面の相互理解への関心を高めることができる。
- ・ 友達と作品を読み合うことで、対話を通してより計算に親しむことができる。